

# 水害に強い地域づくりに関するアンケート調査 集計結果報告（詳細版）

## 1. はじめに

国立研究開発法人 土木研究所 水災害・リスクマネジメント国際センターでは、国土交通省河川技術研究開発制度に基づき、国土交通省近畿地方整備局 琵琶湖河川事務所・滋賀県土木交通部流域政策局流域治水政策室との連携のもと、水害リスク情報を活用したまちづくり手法に関する研究に取り組んでいます。土木研究所では、本研究の一環として今後の日本における水害に強い地域づくり手法を検討するため、滋賀県、甲賀市等のご協力のもと、県内特に水害リスクの高い6つの地区において「水害に強い地域づくりに対するアンケート調査」を実施いたしました。

調査は2016年3月～4月にかけて実施し、合計449人の方からのご回答をいただきました。本冊子では、集計結果の詳細をご報告させていただきます。調査に際しては、多数の方々からのご協力をいただき、心より御礼申し上げます。

## 2. 調査の方法

- ・調査方法：郵送による質問紙の配布・回収
- ・対象地区：地先の安全度マップを市町の防災マップに活用している滋賀県内の市町のうち、特に水害リスクが高い6地区  
(米原市村居田、高島市朽木野尻、甲賀市黄瀬・勅旨・江田・神山)
- ・調査対象者の抽出方法：対象地区の選挙人名簿から、各世帯から調査対象者をランダムに抽出。ただし、社員寮や社会福祉施設の居住者、自治会外の居住者は名簿抽出後に除外。また、高島市朽木野尻区の上野団地は、住民ワーキング活動の対象外のため除外。
- ・調査実施時期：2016年3月14日～4月28日
- ・総回答者数：449人  
内訳：住民ワーキングを開催している地域：計144人  
村居田46人、朽木野尻13人、黄瀬85人、  
住民ワーキングを開催していない地域：305人  
勅旨126人、江田80人、神山99人
- ・総回収率：名簿抽出した1,549人に対して、29.0%  
内訳：村居田41.8%、朽木野尻54.2%、黄瀬34.8%、勅旨32.9%、江田22.9%、  
神山22.6%

## 3. 調査実施機関及び問合せ先

国立研究開発法人 土木研究所 水災害・リスクマネジメント国際センター (ICHARM)  
〒305-8516 茨城県つくば市南原 1-6  
TEL：029-879-6815、 FAX：029-879-6709、 Mail：icharmsurvey@gmail.com  
本調査に関するホームページ：  
[http://www.icharm.pwri.go.jp/special\\_topic/questionnaire\\_shiga.html](http://www.icharm.pwri.go.jp/special_topic/questionnaire_shiga.html)

## 4. 調査結果

### 4.1. 水害への関心や知識

問1	あなたは、お住まいの地域で水害や地震、土砂災害が起こるかもしれないと不安に思いますか？
----	---

<全回答者>

- ・水害・地震・土砂災害について「強くそう思う」または「そう思う」と回答した割合は7割以上となった。地域別に見ると、神山・黄瀬で土砂災害への不安が高くなった。グラフ内の数字は、各選択肢に回答した人数を示している。

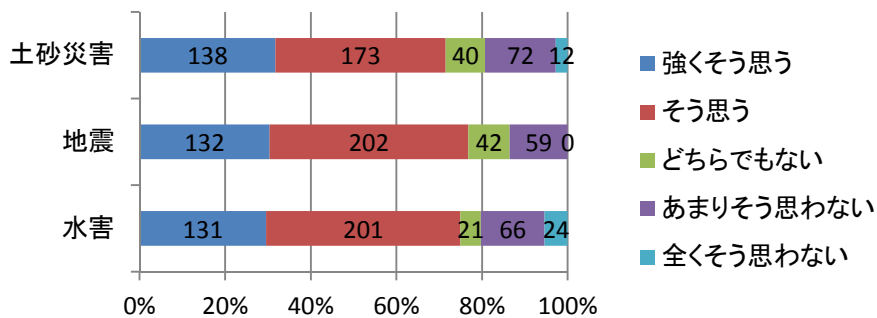


図1 災害への不安感

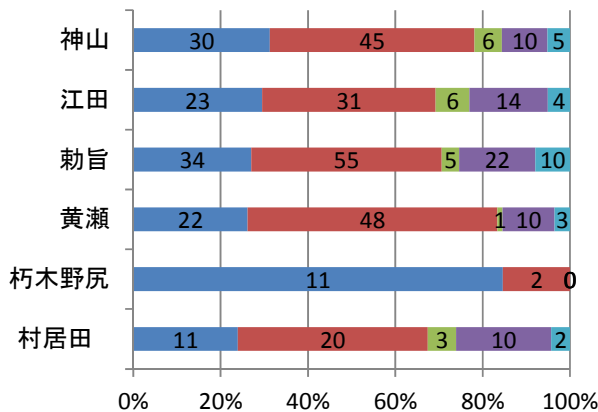


図2 水害への不安感

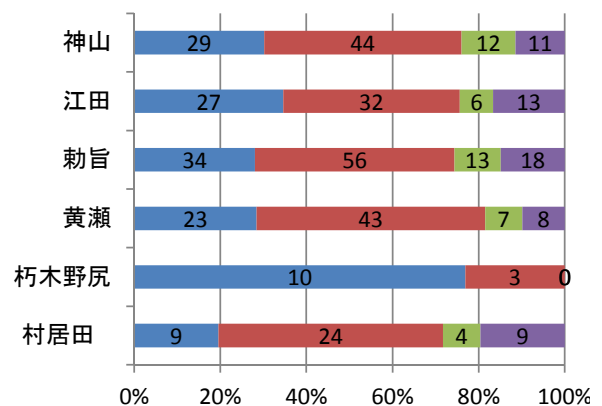


図3 地震への不安感

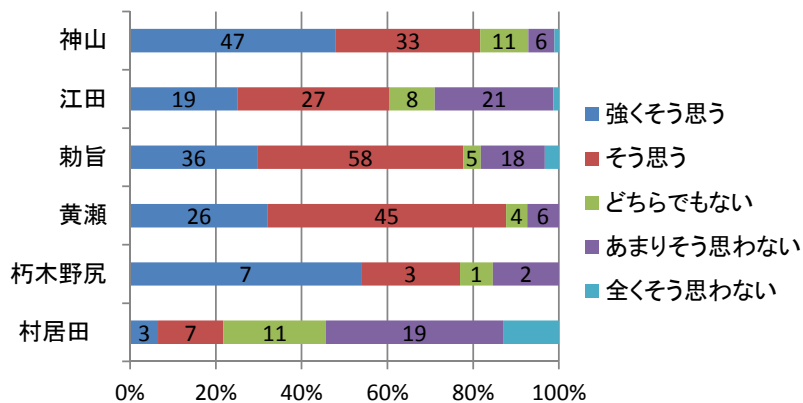


図4 土砂災害への不安感

問2 市では、災害による危険性を示した防災マップを作成しています。あなたは、防災マップを知っていますか？

- ・見たことがある人は、全体の 73.8% となった。
- ・カイ二乗検定の結果、地域間での差は確認されなかった。(p=0.211>0.05)

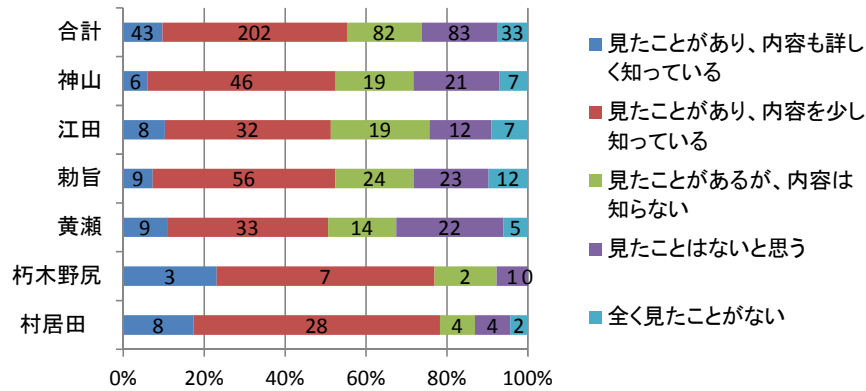


図5 防災マップの認知度

補足：

カイ二乗検定とは？

観測された値と期待される理論上の値の食い違いの程度を確認するための検定手法であり、地域別などの回答者のグループごとに回答に差があるかないかを分析できる。

問3 (いくつかでも) <問2で、「1. 見たことがあり、内容も詳しく知っている」・「2. 見たことがあり、内容を少し知っている」・「3. 見たことがあるが、内容は知らない」と回答した方へ> あなたは、どのような方法で防災マップをご覧になりましたか？ 該当するものをいくつかでもお選びください。

- ・自宅に配られたマップを見た割合が最も多い。

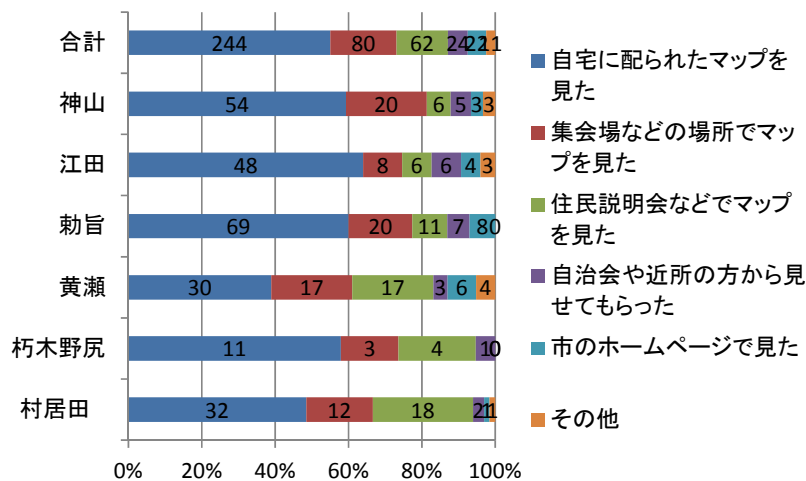


図6 防災マップを見た手段

問4 市が配布する防災マップでは、100年に1回起こるような大雨が降った場合に想定される浸水予測が示されています。あなたはこのことを知っていますか？

- ・全回答者のうち、「あまり知らない」と「全く知らない」が 48.8% となった。

<地域別>

- ・住民ワーキングの活動を行っている村居田・朽木野尻・黄瀬では、「非常によく知っている・よく知っている・知っている」の割合がやや高くなった。
- ・カイ二乗検定の結果、地域間での差が確認された。(p=0.000<0.05)

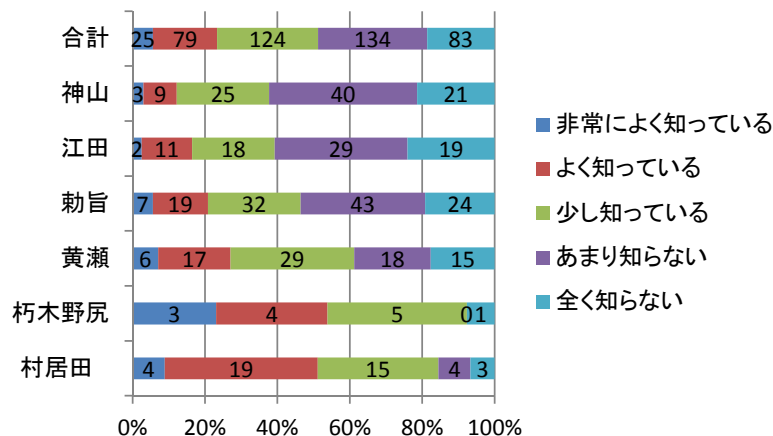


図7 100年に1回起こるような大雨での浸水予測の認知度（地域別）

<想定浸水深さのグループ別>

- ・全回答者のうち、地先の安全度マップでの浸水予測において、200年に1回起こるような大雨での想定浸水深さが3m以上となる地点のお住まいの方が64人(14.3%)、3m未満の方が138人(30.7%)、浸水無しの方が247人(55.0%)となった。
- よって、3m以上をグループA、3m未満をグループB、浸水無しをグループCとして、グループ別に分析すると、想定浸水深さが高いグループAになるほど、「非常によく知っている・よく知っている・知っている」の割合が高くなった。

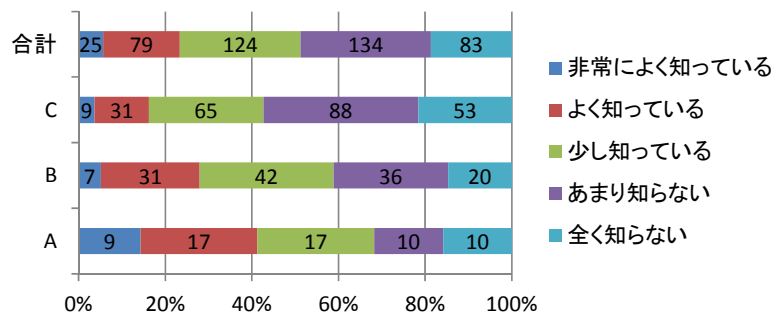


図8 100年に1回起こるような大雨での浸水予測の認知度（グループ別）

問5	滋賀県が公表する「地先の安全度マップ」では、市の防災マップに掲載された「100年に1回起こるような大雨」だけでなく、「200年に1回や10年に1回」などの発生頻度の異なる大雨も想定した浸水区域や、家屋水没発生確率などの様々なマップも公表しています。あなたはこのことを知っていますか？
----	---

- ・前問に比べて、「あまり知らない」と「全く知らない」の割合が増え、あわせて65.3%となった。

<地域別>

- ・住民ワーキングの活動を行っている村居田・朽木野尻・黄瀬では、「非常によく知っている・よく知っている・知っている」の割合がやや高くなった。
- ・カイ二乗検定の結果、地域間での差が確認された。(p=0.000<0.05)

<想定浸水深さのグループ別>

- ・想定浸水深さが高いグループAになるほど、「非常によく知っている・よく知っている・知っている」の割合が高くなった。

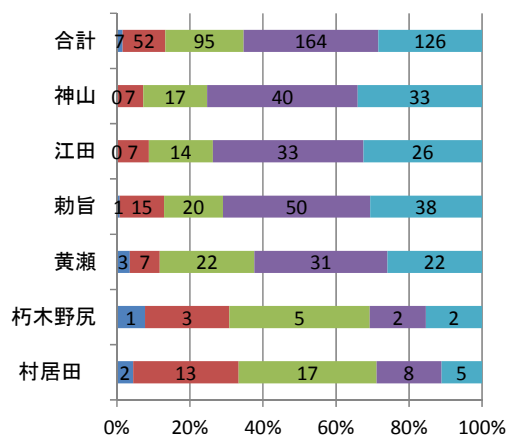


図9 地先の安全度マップの認知度 (地域別)

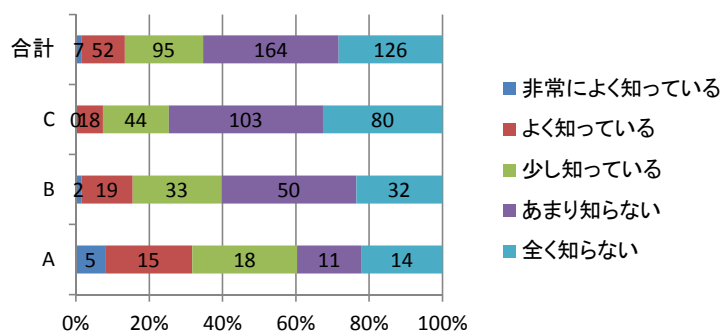


図10 地先の安全度マップの認知度 (グループ別)

問6 地先の安全度マップによれば、お住まいの地域では、200年に1回起こるような大雨が降った場合に浸水が予測されています。このような浸水予測について知っていますか？

<地域別>

- ・全回答者のうち、「あまり知らない」と「全く知らない」が55.2%となった。
- ・住民ワーキングの活動を行っている村居田・朽木野尻・黄瀬では、「非常によく知っている・よく知っている・知っている」の割合がやや高くなった。
- ・カイ二乗検定の結果、地域間での差が確認された。(p=0.000<0.05)

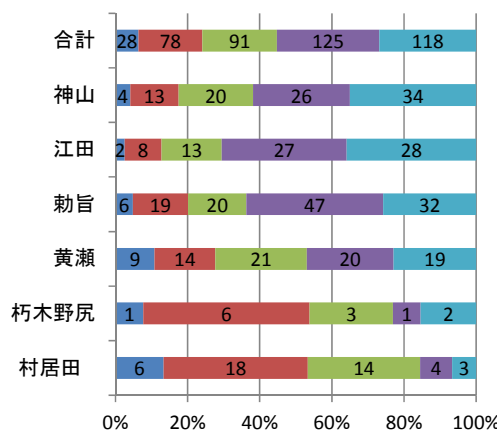


図11 200年に1回起こるような大雨の浸水予測の認知度 (地域別)

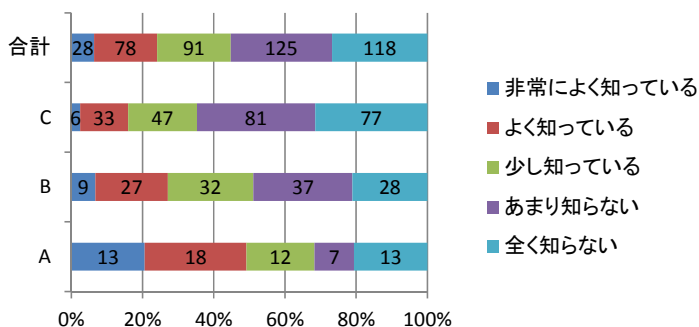


図12 200年に1回起こるような大雨の浸水予測の認知度 (グループ別)

<グループ別>

- ・想定浸水深さが高いグループAになるほど、「非常によく知っている・よく知っている・知っている」の割合が高くなった。

問7 (いくつでも)	<p>&lt;問6で、「1. 非常によく知っている」、「2. よく知っている」、「3. 少し知っている」と回答した方へ&gt;</p> <p>あなたは、どのような方法でこれらの浸水予測を見ましたか？</p> <p>該当するものを<u>いくつでも</u>お選びください。</p>
---------------	--

- ・住民ワーキングの活動を行っている村居田・朽木野尻・黄瀬では、「住民説明会での県職員からの説明資料」が最も多くなった。

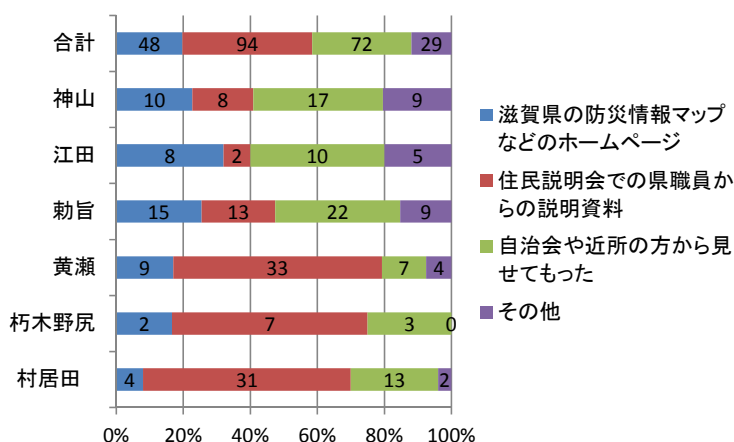


図 13 浸水予測を見た手段

まとめとご提案

まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災マップの100年に1回の大雨での浸水予測について「あまり知らない」と「全く知らない」と回答した割合は48.8%、地先の安全度マップでは55.2%となった。</li> <li>・住民WGの活動を行っている村居田・朽木野尻・黄瀬では、浸水予測等について、「非常によく知っている・よく知っている・知っている」の割合が高くなった。</li> </ul>
地域への ご提案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・浸水予測を知らない人が多いので、地区の会館や滋賀県の防災情報マップのホームページで、浸水予測についてみてみましょう。</li> <li>・ご家庭やご近所同士でも、浸水予測について話をしてみましょう。</li> </ul>

4.2. 水害対策について

説明	<p>滋賀県では、200年に1回起こるような大雨として、時間雨量最大131mm程度の雨を想定しています。100年に1回起こるような大雨は時間雨量最大109mm、10年に1回では時間雨量最大50mmとなります。200年に1回起こるような大雨に対する水害対策について、あなたご自身のお考えを教えてください。</p>
----	---

問8	<p>問6に示したような<b>200年に1回</b>起こるような大雨が降ったとすると、あなたのお住まいには被害が出るとおもいますか？</p>
----	--

<地域別>

・全回答者のうち、「浸水しない」または「床下浸水」と回答した割合が、56.0%となった。

<グループ別>

・想定浸水深さが3m以上であるグループAのうち、25.4%が「浸水しない」または「床下浸水」を想定している。想定浸水深さが0m以上3m未満であるグループBのうち、22.8%が「浸水しない」と想定している。

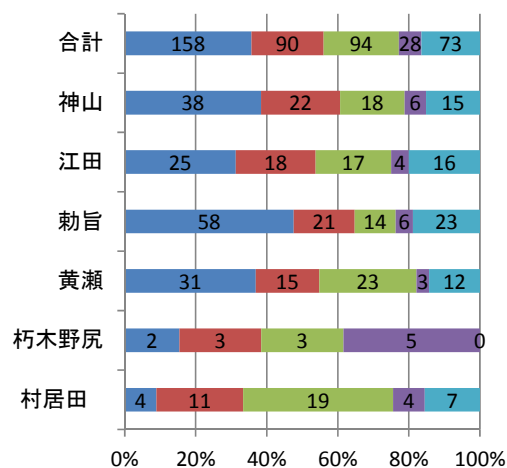


図 14 大雨による被害の想定（地域別）

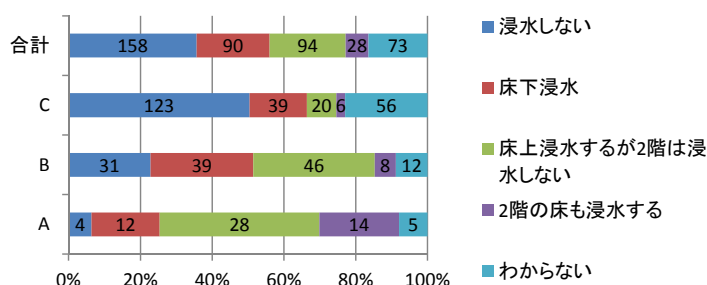


図 15 大雨による被害の想定（グループ別）

問 9

2015年9月には茨城県常総市で鬼怒川の堤防が決壊し、住宅の被害も発生しました。あなたは、これ以降、水害について以前よりも意識するようになりましたか？

・全回答者のうち、「強く意識するようになった」または「少し意識するようになった」人が、あわせて76.5%となった。

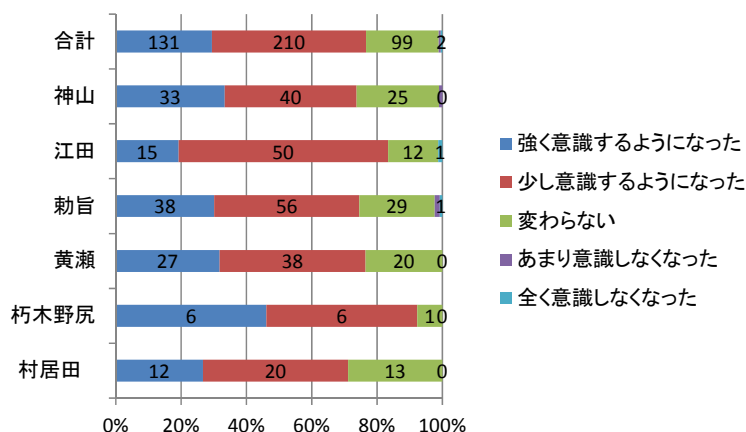


図 16 鬼怒川の堤防結果以後の水害への意識

問 10 あなたは、200年に1回起こるような大雨により水害が起こっても、ご自分やご家族の命を守ることができると思いますか？

・全回答者のうち、「強くそう思う」または「そう思う」と回答した割合は41.6%となった。

<地域別>

・カイ二乗検定の結果、統計的な差は見られなかった。(p= 0.411>0.05)

<グループ別>

・カイ二乗検定の結果、グループ別での差は見られなかった。(p= 0.191>0.05)

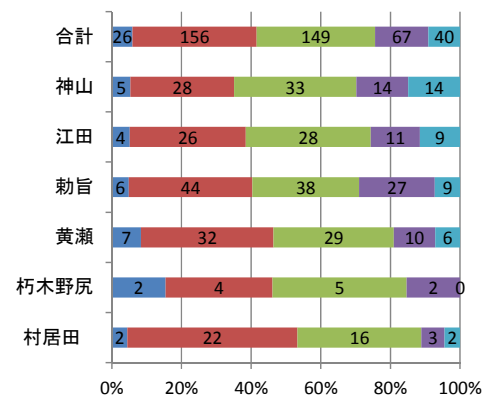


図 17 水害への自己効力感（地域別）

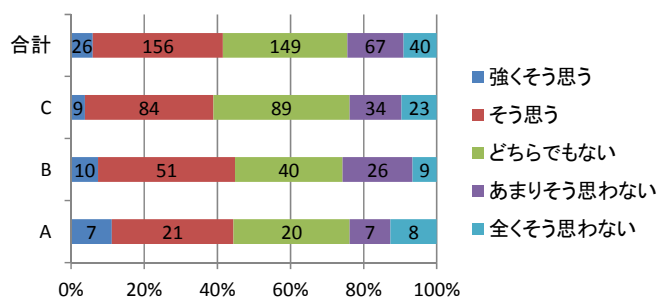


図 18 水害への自己効力感（グループ別）

問 11 このような水害に備えて、あなたは、下記のような対策を行うことができますか？ ①～⑤のそれぞれについて5段階の選択肢から一つをお選びください。

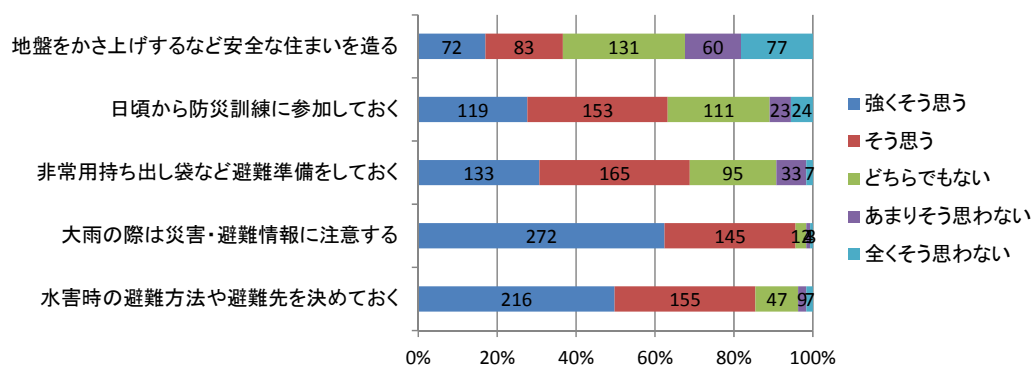


図 19 水害対策への自己効力感

<地域別>

・カイ二乗検定の結果、いずれの対策についても統計的な差は見られなかった。

<グループ別>

・カイ二乗検定の結果、いずれの対策についても統計的な差は見られなかった。想定浸水深さ 3 m以上となるグループAで「地盤のかさ上げするなど安全な住まいを造る」ことへの意識が高くなるという傾向は確認されなかった。



問 12 (いくつでも)	あなたのお住まいでは、このような水害に対して実際にどのような対策を行っていますか？ 該当するものを <u>いくつでも</u> お選びください。
-----------------	---

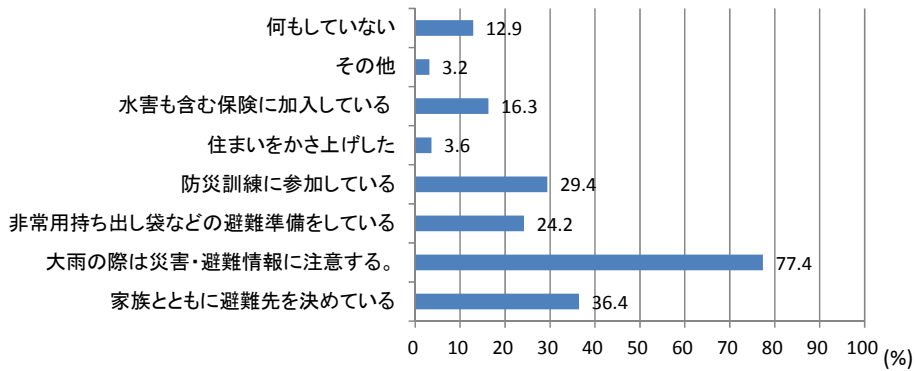


図 20 水害への対策状況

<地域別>

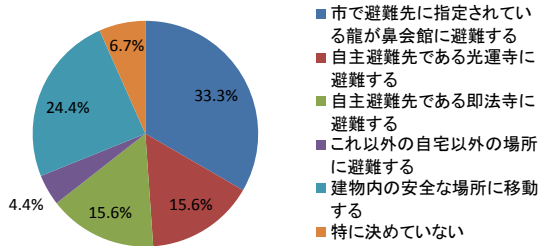
- ・カイ二乗検定の結果、「家族とともに避難先を決めている」と「防災訓練に参加している」に関して、地域別での統計的差が確認された。
- ・「家族とともに避難先を決めている」は、村居田地区で 66.7%となり、その他の地区で 25~46%であるのに対して、特に高くなった。「防災訓練に参加している」は、村居田地区で 57.8%、朽木野尻地区で 61.5%となり、その他の地区で 11~38%であるのに対して、特に高くなった。

問 13	あなたは、 <b>200年に1回</b> 起こるような著しい大雨の際、避難を行う予定ですか？
------	--

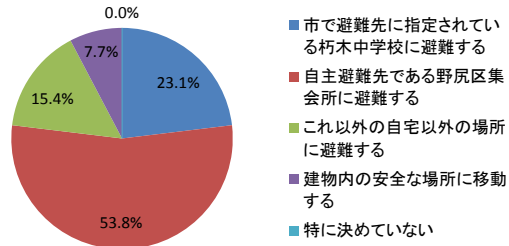
<地域別>

- ・村居田・朽木野尻地区以外では、「特に決めていない」人が 2割前後存在している。

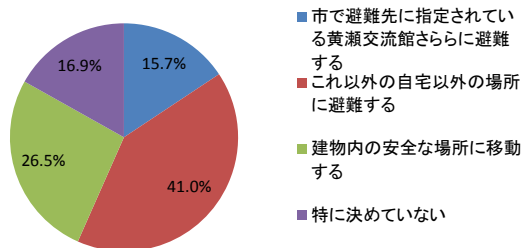
村居田：



朽木野尻：



黄瀬：



勅旨：

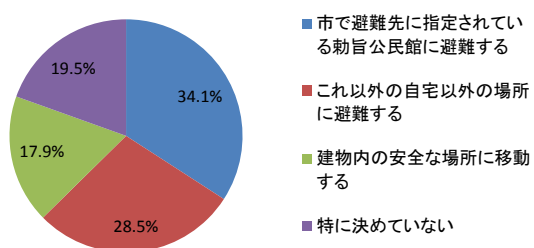
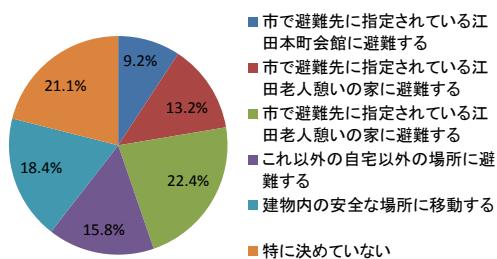


図 21 避難の予定（その1）

江田：



神山：

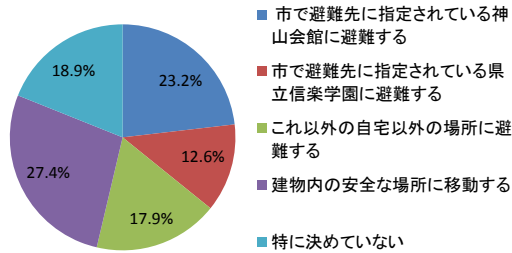


図 22 避難の予定 (その 2)

問 14 (いくつでも)	あなたは、このような水害時にはどのような情報をたよりに避難を行いますか？ 該当するものを <u>いくつでも</u> お選びください。
-----------------	---

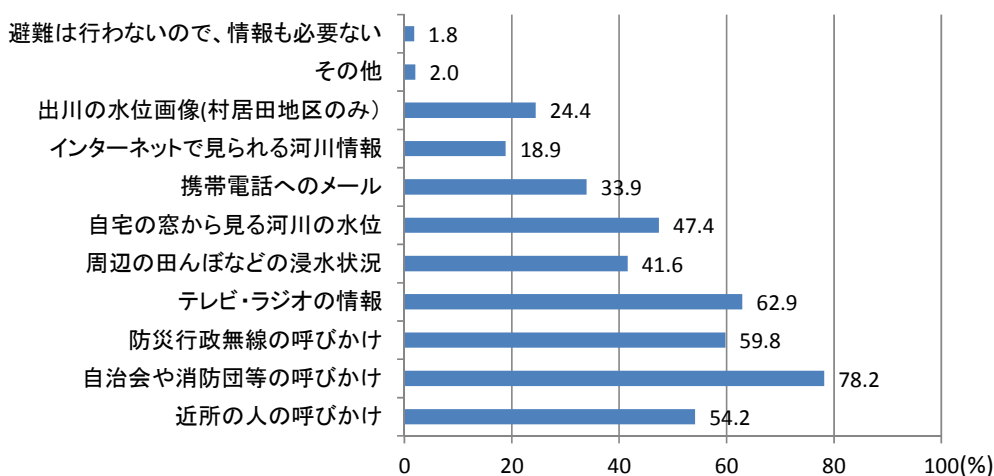


図 23 避難の際に用いる情報

<地域別>

- ・カイ二乗検定の結果、「防災行政無線の呼びかけ」と「周辺の田んぼなどの浸水状況」に関して、地域別での統計的差が確認された。
- ・「防災行政無線の呼びかけ」については、朽木野尻地区で 92.3%となり、その他の地区で 48.8～77.8%であるのに対して、特に高くなった。
- ・「周辺の田んぼなどの浸水状況」については、黄瀬地区で 55.3%、朽木野尻地区で 53.8%となり、その他の地区で 30.2%～47.5%であるのに対して、特に高くなった。
- ・「米原市がインターネットで提供している出川の水位画像」は米原市独自の取り組みであるが、村居田地区の 24.4%がこの情報を頼りにしていることがわかった。

**まとめとご提案**

まとめ	・「家族とともに避難先を決めている」は、村居田地区で 66.7%となり、その他の地区で 25～46%であるのに対して、特に高くなった。
地域 への ご提案	・水害対策についての関心を持ちましょう。 ・特に避難対策については、ご家庭内での避難の方法について考えてみましょう。

### 4.3. 水害に強い地域づくりについて

**説明** 将来の水害から自分やご家族の命を守るためには、地区の皆さんが協力して、避難などの「備える対策」や安全な住まいづくりなどの「被害を減らす対策」を行うことも必要です。滋賀県では、水害に強いづくりを目指して、平成26年3月31日に、流域治水条例（流域治水の推進に関する条例）を公布しました。水害に強い地域づくりに関するあなたご自身のお考えを教えてください。

**問 15** あなたは、滋賀県による流域治水条例のことをご存知ですか？

・全回答者のうち、「非常によく知っている、よく知っている、少し知っている」人の割合は27.0%に留まった。

<地域別>

- ・カイ二乗検定の結果、統計的な差が確認された ( $P=0.005<0.05$ )
- ・特に、村居田・朽木野尻地区では、「非常によく知っている、よく知っている、少し知っている」の割合が5割前後となり、高くなった。

<グループ別>

・想定浸水深さが大きいグループAになるほど、「非常によく知っている、よく知っている、少し知っている」の割合は大きくなったが、その割合は48.4%となり、過半数以下に留まった。

<年代別>

・年齢が70歳代まで高まるほど、「非常によく知っている、よく知っている、少し知っている」の割合の割合が高くなった。

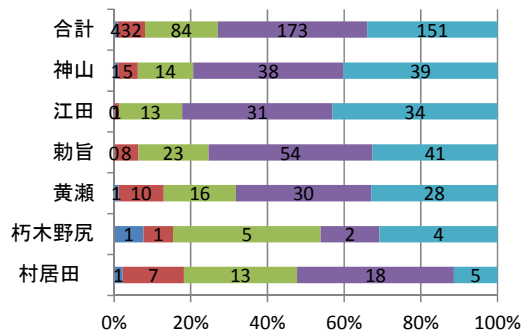


図 24 条例の認知度（地域別）

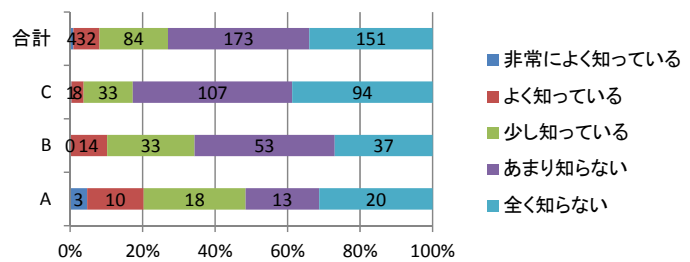


図 25 条例の認知度（グループ別）

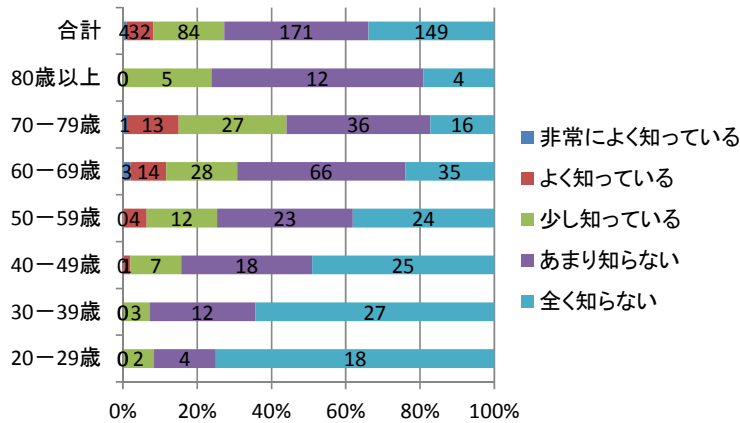


図 26 条例の認知度（年齢別）

問 16 滋賀県をはじめ日本では、大河川では戦後最大の大雨に、小河川では 10 年に 1 回起こるような大雨に対応することを河川整備の目標にしており、これらを超える大雨では被害が生じる可能性があります。あなたはこのことを知っていますか？

・全回答者のうち、「非常によく知っている、よく知っている、少し知っている」人の割合は 44.6% に留まった。

<地域別>

- ・カイ二乗検定の結果、統計的な差が確認された (P= 0.018<0.05)
- ・特に、村居田・朽木野尻地区で、「非常によく知っている、よく知っている、少し知っている」の割合が高くなった。

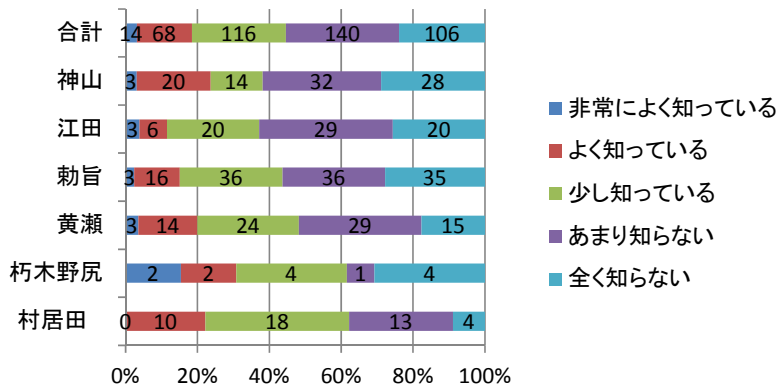


図 27 河川整備目標の認知度（地区別）

問 17 流域治水条例は、どのような洪水からも人命を守るため、地域の皆さんが行政と協力しながら「水害に強い地域づくり計画」を作成することができると定めています。あなたは、このことをご存知ですか？

・全回答者のうち、「非常によく知っている、よく知っている、少し知っている」人の割合は 36.9% に留まった。

<地域別>

- ・カイ二乗検定の結果、統計的な差が確認された (P= 0.000<0.05)
- ・特に、住民ワーキングの活動が進んでいる村居田・朽木野尻・黄瀬地区で、「非常によく知っている、よく知っている、少し知っている」の割合が高くなった。
- ・一方、これら以外の地区では、「非常によく知っている、よく知っている、少し知っている」の割合は3割前後に留まった。

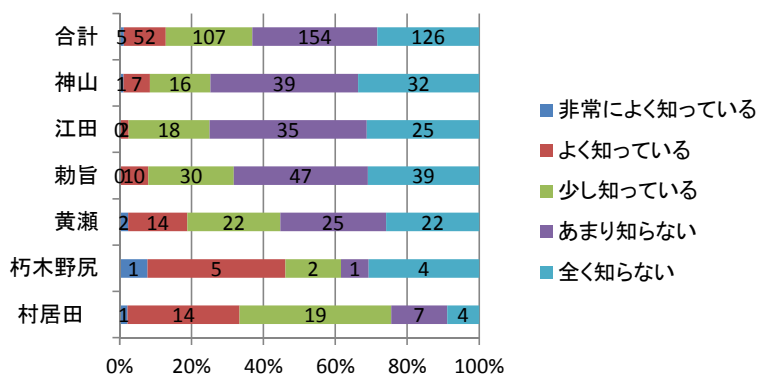


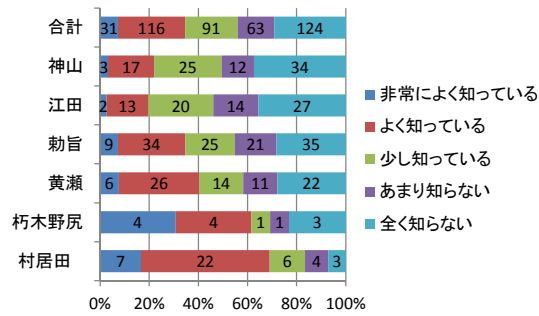
図 28 水害に強い地域づくりの認知度

問 18	地域の皆さんが、「水害に強い地域づくり計画」を作成することにより、下記のような取り組みができます。あなたは、これらの取り組みをご存じですか？ ①～⑤のそれぞれについて、5段階の選択肢から一つをお選びください。
------	---

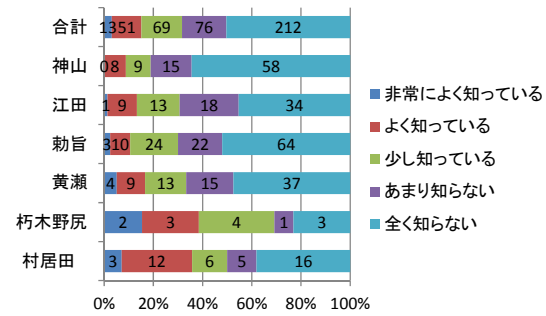
<地域別>

- ・全回答者のうち、②～⑤の取り組みについては、5割前後の人が全く知らない。
- ・地域別では、①～③の取り組みについては、統計的な差が見られた。

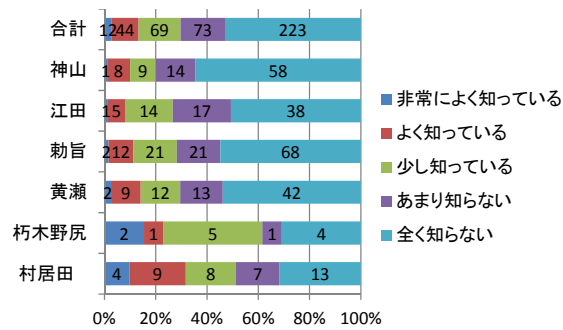
① 浸水警戒区域を指定する



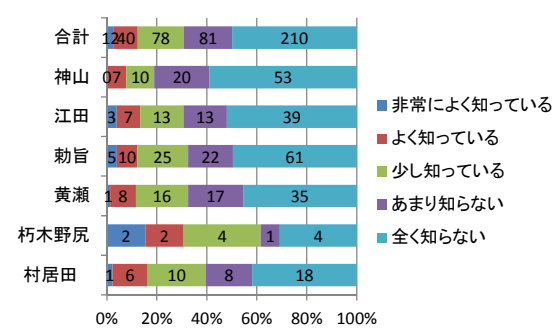
② 浸水警戒区域内では新築や増改築の際に地盤のかさ上げ工事等への助成が得られる



③ 浸水警戒区域内で新築や増改築の建築確認の際に、県に耐水性をチェックしてもらえる



④ 避難場所の整備への支援が得られる



⑤ 避難体制への県・市の支援が得られる

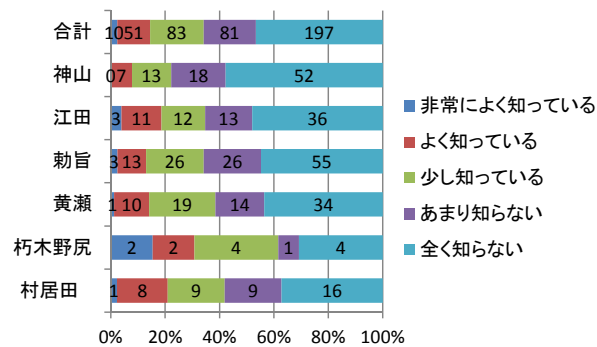
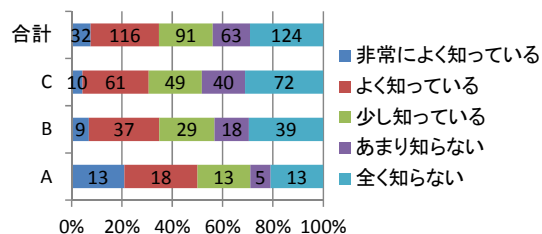


図 29 水害に強い地域づくりの取り組みの認知度（地域別）

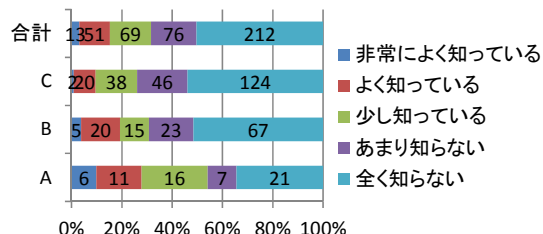
<グループ別>

・想定浸水深さが3m以上となるグループAでは取り組みを知っている割合がやや増えた。

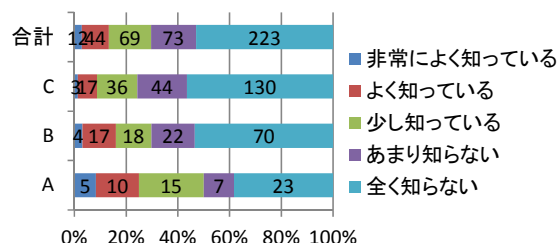
①浸水警戒区域を指定する



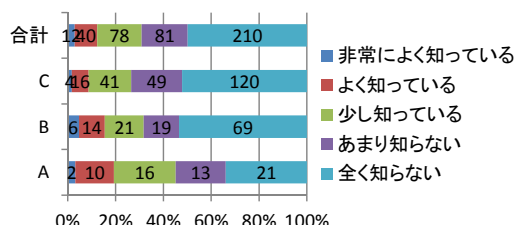
②浸水警戒区域内では新築や増改築の際に  
地盤のかさ上げ工事等への助成が得られる



③浸水警戒区域内で新築や増改築の建築確認  
の際に、県に耐水性をチェックしてもらえる



④避難場所の整備への支援が得られる



⑤避難体制への県・市の支援が得られる

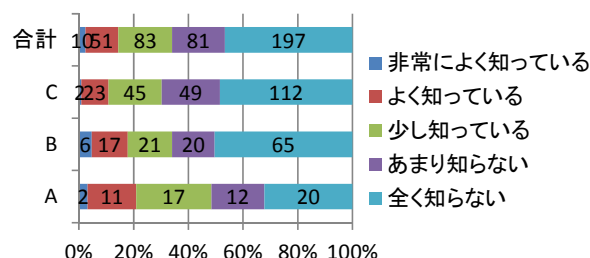


図 30 水害に強い地域づくりの取り組みの認知度（グループ別）

問 19 あなたは、地区の皆さんが協力して、避難対策などの水害に備える対策に取り組むことにより、水害に強い地域づくりを実現できると思いますか？

- ・全回答者のうち、「強くそう思う」または「そう思う」と答えた割合は72.3%と高かった。
- ・カイ二乗検定の結果、地域別での統計的な差は見られなかった（ $P=0.265>0.05$ ）。
- ・グループ別でも、同様に統計的な差は見られなかった（ $P=0.576>0.05$ ）。

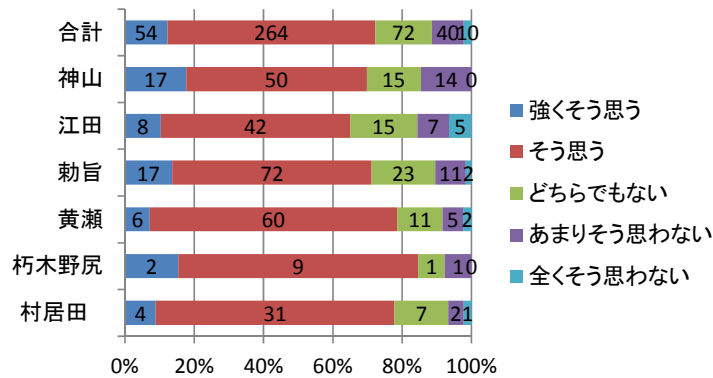


図 31 集团的効力感（避難対策等）

問 20 あなたは、地区の皆さんが協力して、個人住宅の地盤のかさ上げや高基礎、バルコニーなどの避難空間の設置などの安全な住まいづくりに取り組むことにより、水害に強い地域づくりを実現できると思いますか？

- ・全回答者のうち、「強くそう思う」または「そう思う」と答えた割合は 53.8% となった。
- ・カイ二乗検定の結果、地域別での統計的な差は見られなかった ( $P=0.717>0.05$ )。
- ・グループ別でも、同様に統計的な差は見られなかった ( $P=0.965>0.05$ )。

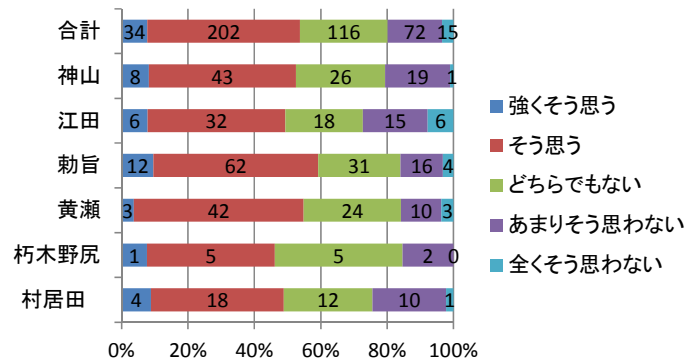


図 32 集团的効力感（安全な住まいづくり）

問 21 あなたは、水害に強い地域づくり計画の作成に向けた地域での取り組みに参加したいと思いますか？

- ・全回答者のうち、「強くそう思う」または「そう思う」と答えた割合は 46.1% となった。
- ・カイ二乗検定の結果、地域別での統計的な差は見られなかった ( $P=0.642>0.05$ )。
- ・グループ別でも、同様に統計的な差は見られなかった ( $P=0.09>0.05$ )。



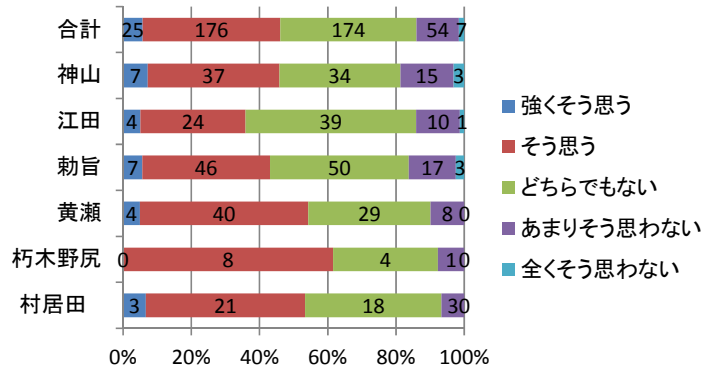


図 33 参加意欲

問 22	<p>&lt;問 21 で、「4. あまりそう思わない」「5. 全くそう思わない」と回答した方へ&gt;          (いくつでも) あなたが、水害に強い地域づくり計画の作成に向けた地域での取り組みに参加したいとは思わない理由について、該当するものを<u>いくつでも</u>お選びください。</p>
------	--

- ・「仕事が忙しくて時間が無い」が最も多い回答となった。
- ・カイ二乗検定の結果、いずれの選択肢についても、地域別及びグループ別での統計的な差は見られなかった。

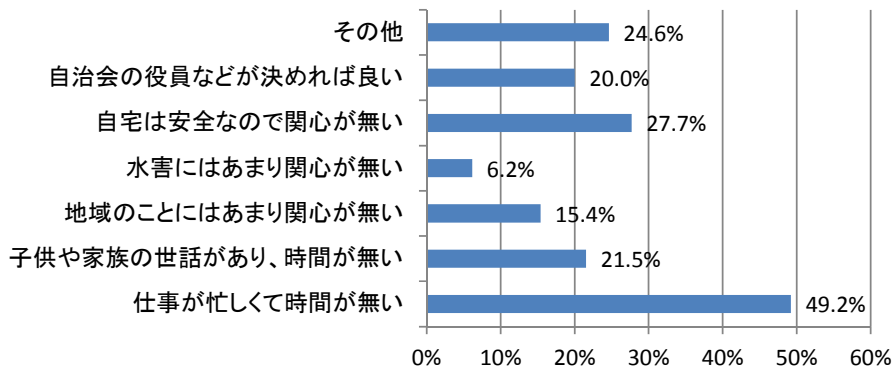


図 34 参加しようと思わない理由

問 23	<p>地域で作成する「水害に強い地域づくり計画」では、200年に1回起こるような大雨で人命被害を生じる恐れがある地区を「浸水警戒区域」として指定することができます。浸水警戒区域で住宅の新築や増改築を行う際は、想定水位以上の高さに避難できる空間を確保できているか、または確実に避難できる避難場所が近くにあるかを、県でチェックします。あなたはこのことを知っていますか？</p>
------	--

- ・全回答者のうち、「非常によく知っていた・よく知っていた・少し知っていた」と答えた割合は30.8%に留まった。

<地域別>

- ・カイ二乗検定の結果、地域別での統計的な差が確認された (P=0.000>0.05)。
- ・特に、江田・神山地区では知っている割合が著しく低くなった。

<グループ別>

- ・カイ二乗検定の結果、地域別での統計的な差が確認された (P=0.000>0.05)。
- ・想定浸水深さが3m以上となるグループ A では、知っている割合が高くなった。

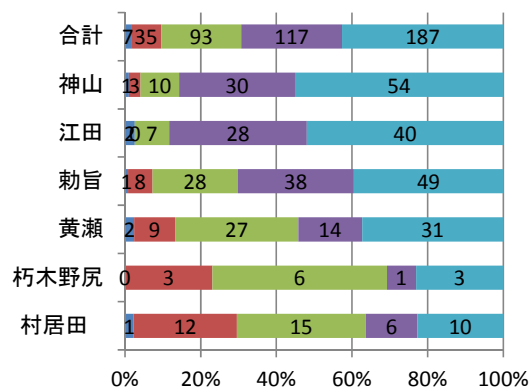


図 35 耐水性チェックの認知度 (地域別)

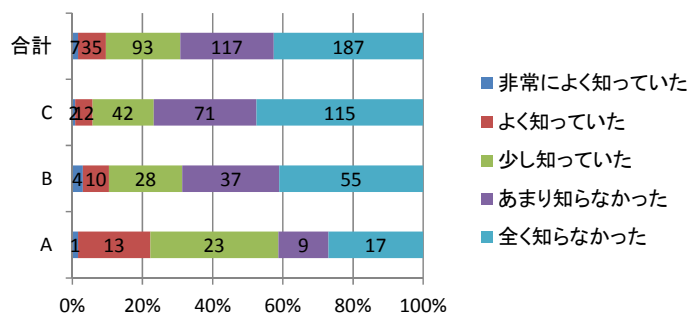


図 36 耐水性チェックの認知度 (グループ別)

問 24 水害に強い地域づくりに向けて、下記のような機会があれば、参加したいと思いますか？ それぞれについて、5段階の選択肢から一つをお選びください。

- ・「強くそう思う」及び「そう思う」と答えた割合は、水害時の避難体制に関する地域での話し合い、浸水警戒区域に関する地域での話し合い、浸水警戒区域に関する県の説明会、水害に備えたかさ上げ工場の説明会の順に高くなった。
- ・かさ上げ工場の説明会以外は、「強くそう思う」及び「そう思う」の割合が半数前後となり、参加意欲は高かった。
- ・カイ二乗検定の結果、地域別では、統計的な差は見られなかった。

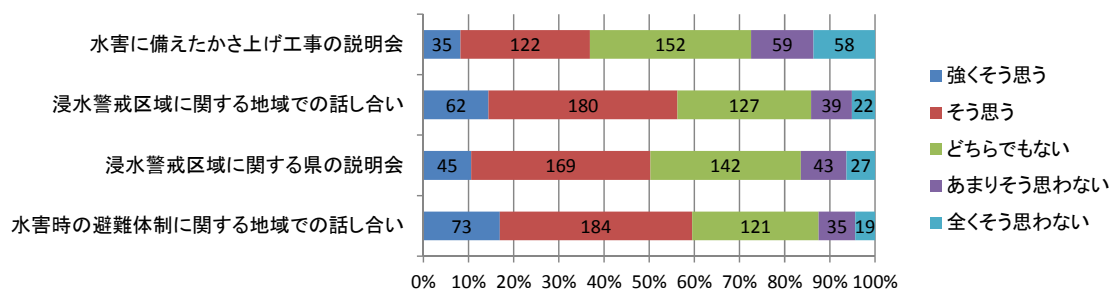


図 37 参加したい機会

<グループ別>

- ・「②浸水警戒区域に関する県の説明会」及び「③浸水警戒区域に関する地域での話し合い」については、グループ別で、統計的な差が見られた。
- ・想定浸水高さが高いグループ A になるほど、「強くそう思う」と「そう思う」と答えた割合が高くなった。

②浸水警戒区域に関する県の説明会

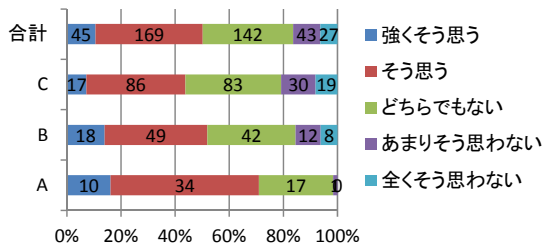


図 38 参加意欲（県の説明会）

③浸水警戒区域に関する地域での話し合い

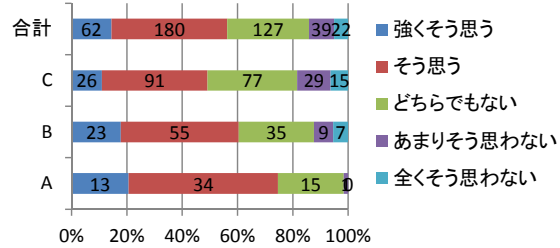


図 39 参加意欲（地域での話し合い）

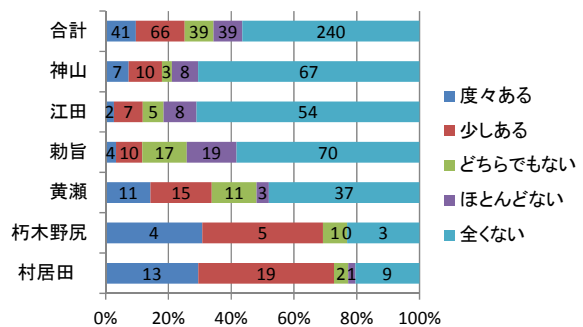
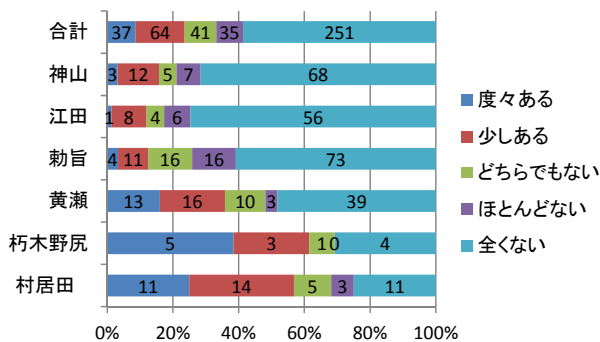
問 25 水害に強い地域づくりに関して、今までに下記のようなことをしたことがありますか？それぞれについて 5 段階の選択肢から一つをお選びください。

<地域別>

- ・住民ワーキングが進んでいる村居田・朽木野尻地区では①や②の割合が高くなった。
- ・いずれの選択肢でも、地域別での統計的な差が確認された。

①流域治水条例の住民説明会に参加した

②水害対策に関する地域での会合に参加した



③水害対策について近所の人と話した

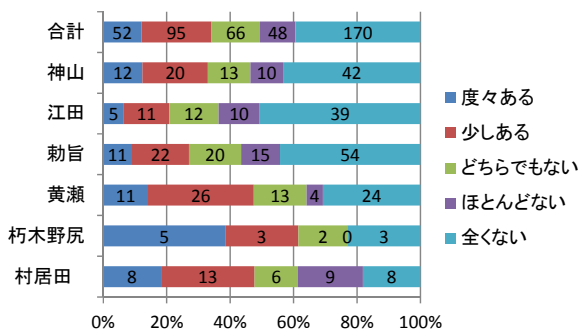


図 40 今までの参加経験

問 26 あなたは、避難体制の整備や浸水警戒区域の指定などの、水害に強い地域づくりには、下記のような効果があると思いますか？それぞれについて、5 段階の選択肢から一つをお選びください。

- ・いずれの選択肢も過半数が「強く思う」または「そう思う」と回答した。
- ・カイ二乗検定の結果、地域別・グループ別での統計的な差は確認されなかった。

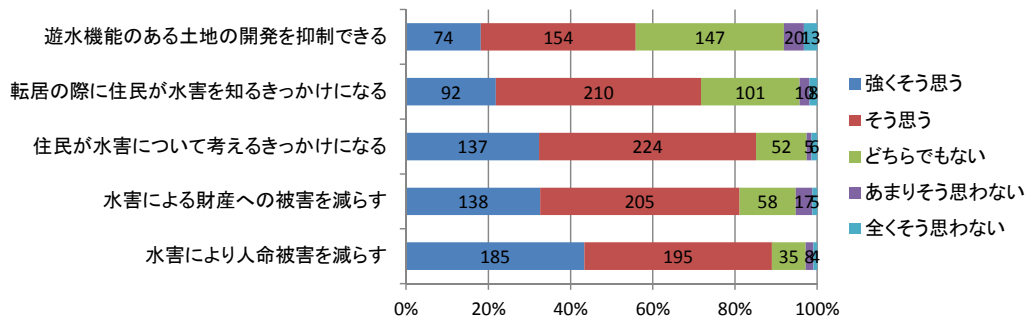


図 41 施策への考え

問 27 もし仮に、下記の取組みも提供された場合、あなたは魅力を感じますか？ ①～④のそれぞれについて、5段階の選択肢から一つをお選びください。

- ・挙げられた選択肢については、過半数が魅力を感じている。
- ・カイ二乗検定の結果、地域別・グループ別での統計的な差は確認されなかった。

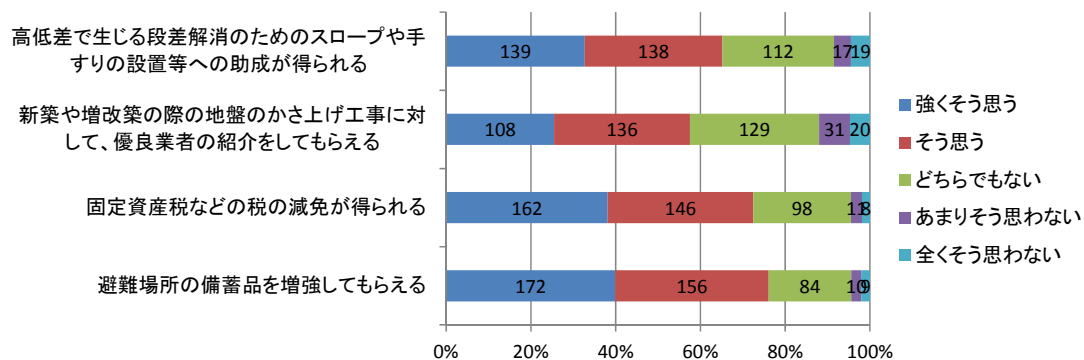


図 42 今後の施策への考え

問 28 一方で、水害に強い地域づくりに関しては、様々な意見も挙がっています。あなたは、下記のような意見に対してどのように思いますか？ ①～④のそれぞれについて、5段階の選択肢から一つをお選びください。

- ・「②川幅を広げたり川底を掘ったりしなければ、浸水警戒区域の指定をしても被害は減らない」という意見への賛同が最も高かった。
- ・カイ二乗検定の結果、選択肢②以外では、地域別での統計的な差は見られなかった。

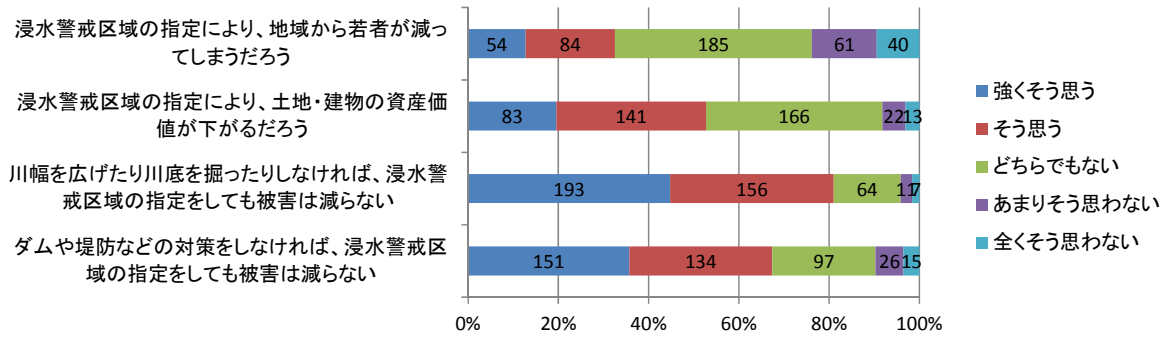


図 42 施策への様々な意見への考え

問 29	流域治水条例では、その他に、「そなえる」対策として、不動産取引時に宅地建物取引業者が、買い主や借り主に対して物件の水害リスク情報を説明するという義務を課しています。あなたは、このことを知っていますか？
------	--

- ・全回答者のうち、「非常によく知っている・よく知っている・少し知っている」割合は、21.1%となった。
- ・カイ二乗検定の結果、地域別・グループ別の統計的な差は見られなかった。

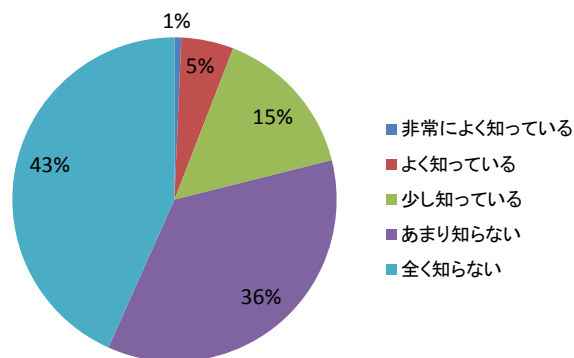


図 43 宅地建物取引時の水害リスク情報説明の努力義務の認知度

### まとめとご提案

まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・流域治水条例については、全回答者のうち、「非常によく知っている、よく知っている、少し知っている」人の割合は 27.0%。</li> <li>・条例を知っている人は、20-30 歳代で約 1 割以下。年齢が 70 歳代まで高まるほど知ってる割合は増える。</li> <li>・水害に強い地域づくり計画」の作成による 5 つの取り組みを知っている割合は約半数前後。</li> <li>・「浸水警戒区域の指定」とともに、「かさ上げ工事の助成や避難場所の支援」が受けられることを知っている人の割合が少ない。</li> <li>・水害に強い地域づくりの取り組みへの参加希望について、「強くそう思う」または「そう思う」と答えた割合は 46.1%。</li> <li>・水害対策についての地域での話し合いに参加したことがある人は約 3 割。</li> </ul>
-----	--

地域 への ご提案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 水害に強い地域づくりは、住民の皆さん全てに関わる活動です。若い世代の方々にも活動について伝えましょう。</li> <li>・ 流域治水条例による浸水警戒区域の指定だけでなく、施策による支援策にも目を向けてみましょう。</li> <li>・ 水害に強い地域づくりの取り組みにぜひ参加してみましょう。</li> </ul>
-----------------	--

#### 4.4. 回答者の基本情報

説明 最後に、あなたご自身について、教えてください。

問 30 あなたの年齢を教えてください。

- ・ 回答者は 60 歳代が最も多くなった。
- ・ カイ二乗検定の結果、地域別・グループ別での統計的な差は見られなかった。

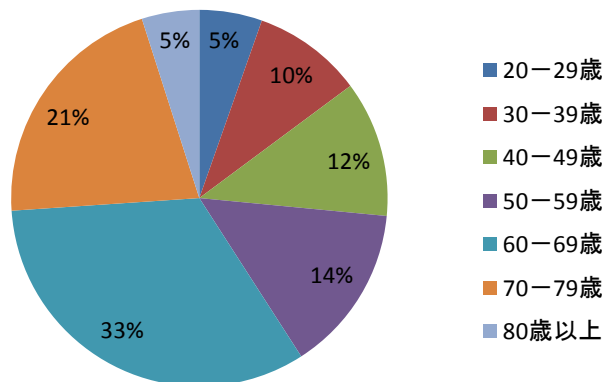


図 44 年齢構成

問 31 あなたの性別を教えてください。

- ・ 男性が 48.4%、女性が 51.6%となった。
- ・ カイ二乗検定の結果、地域別・グループ別での統計的な差は見られなかった。

問 32 あなたのお住まいで同居されているご家族について教えてください。

- ・ カイ二乗検定の結果、地域別・グループ別での統計的な差は見られなかった。

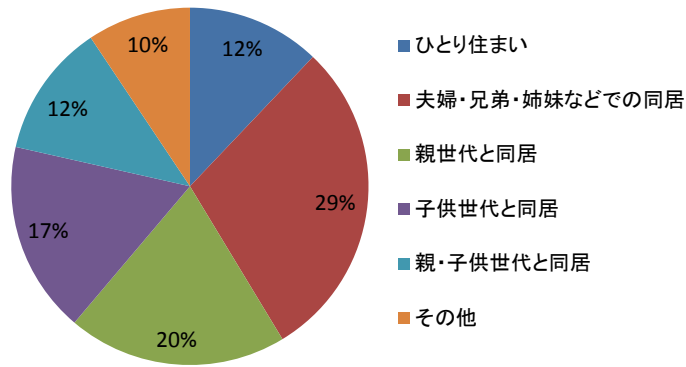


図 45 家族構成

問 33 あなたが同居するご家族には、下記のような水害時の避難が難しい方はいらっしゃいますか？ あてはまるものをいくつでもお選びください。

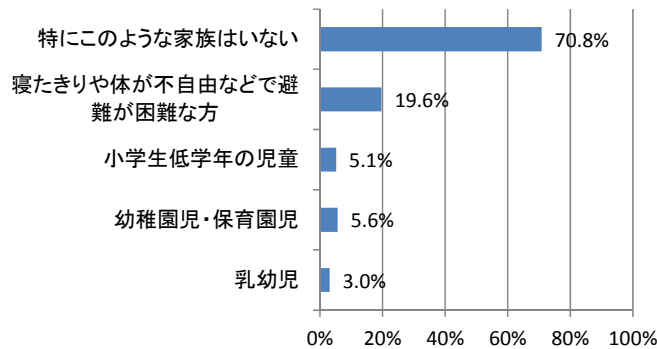


図 46 避難が難しい家族の状況

・カイ二乗検定の結果、「④寝たきりや体が不自由などで避難が困難な方」については地域別での統計的な差が見られた ( $P=0.000<0.05$ )。特に村居田地区で④の割合が少なかった。

問 34 あなたのお住まいの建て方を教えてください。

- ・木造戸建て住宅が主であり、非木造戸建て住宅の割合が 10%となった。
- ・カイ二乗検定の結果、地域別・グループ別での統計的な差は見られなかった。

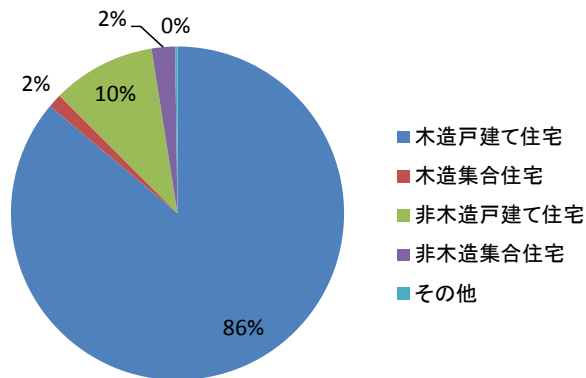


図 47 自宅の状況

問 35 あなたの住まいは何階建てですか？集合住宅の方は、住まいの階も教えてください。

- ・1階建ては13%、2階建ては86.7%、3階建ては0.69%となった。
- ・集合住宅の方のうち、72%は1階に住んでいた。
- ・カイ二乗検定の結果、地域別・グループ別での統計的な差は見られなかった。

問 36 あなたの住まいは、今までに浸水被害を受けたことはありますか？

- ・神山・朽木野尻地区では、今までに浸水被害を受けたことがある割合がやや高くなった。
- ・想定浸水深さが3m以上となるグループAでは、約半数が過去の浸水被害を受けていた。
- ・カイ二乗検定の結果、地域別・グループ別ともに統計的な差が見られた。

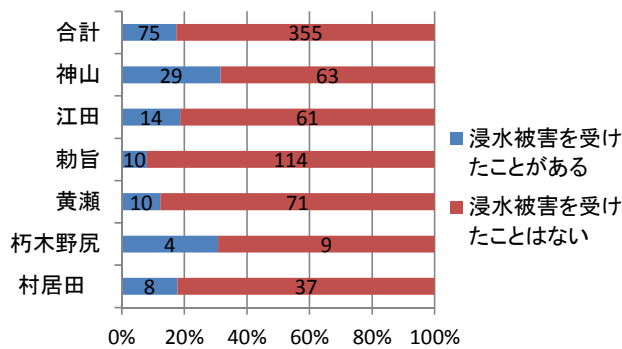


図 48 浸水経験（地域別）

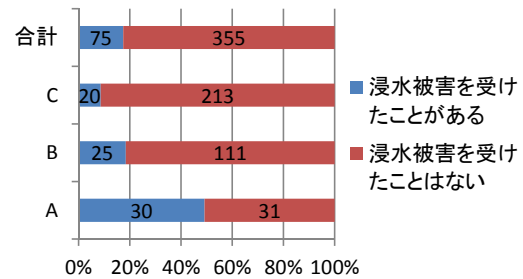


図 49 浸水経験（グループ別）

問 37 あなたの住まいの所有状況を教えてください。

- ・全回答者の93.8%が持ち家住宅に住んでいる
- ・地域別では、カイ二乗検定の結果、統計的な差は見られなかった( $p=0.396>0.05$ )
- ・グループ別に見ると、浸水の危険性のないグループCで賃貸住宅の割合が9.6%と高くなった。

問 38 あなたが、現在のお住まいの場所に住み始めてから何年くらい経ちますか？

- ・住み始めて20年以上たつ回答者が74%となった。
- ・カイ二乗検定の結果、地域別・グループ別での統計的な差は見られなかった。

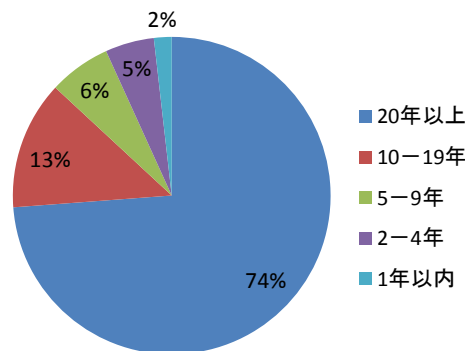


図 50 居住年数



問 39 あなたの住まいは、今後 10 年以内に建替えや増改築を行う予定はありますか？

- ・回答者の 32.6%は建替えや増改築を行う予定がある。
- ・カイ二乗検定の結果、地域別には差が見られたが、グループ別では見られなかった。

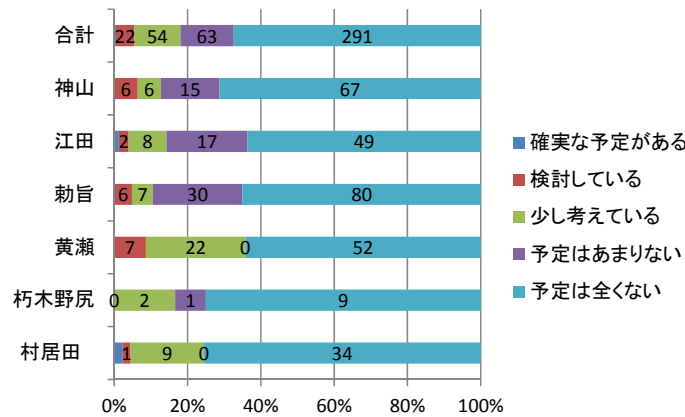


図 51 建替えや増改築の予定

問 40 <問 39 で、「1. 確実な予定がある」、「2. 検討している」、「3. 少し考えている」と回答した方へ>

将来、今お住まいの場所で建て替えや増改築を行うとしたら、あなたは基礎を高くしたり、土地を嵩上げするなど、水害に強い住まいを作ろうと思いますか？

- ・「強くそう思う」及び「そう思う」と答えた割合は過半数となった。
- ・カイ二乗検定の結果、地域別・グループ別での統計的な差は見られなかった。

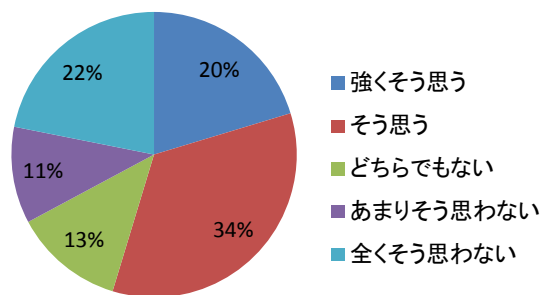


図 51 建替えや増改築時の水害に強い地域づくりへの考え

### まとめとご提案

まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住み始めて 20 年以上たつ回答者が 74%。</li> <li>・回答者の 32.6%は今後 10 年以内に建替えや増改築を行う予定があり、その際に、水害に強い住まいをつくらうと「強くそう思う」及び「そう思う」人は過半数。</li> </ul>
地域への ご提案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建替えや増改築の際には、基礎を高くしたり、土地を嵩上げするなどの、水害に強い住まいづくりについて考えてみましょう。</li> </ul>

水害に強い地域づくりに関するアンケート調査 集計結果報告（詳細版）

2017年2月発行

本調査は、国土交通省河川技術研究開発制度に基づき、国立研究開発法人 土木研究所 水災害・リスクマネジメント国際センターが実施いたしました。

調査へのご協力をいただきました関係機関及び地域の住民の方々に、心より御礼申し上げます。